府立平野高等学校
校長　島津　邦廣

平成 30 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「自信を持ち前向きに生きる人」、「自立した人」、「社会に貢献できる人」を育成する学校

上記「めざす学校像」を実現し、健全で高潔な社会貢献できる生徒の育成をするために、以下の項目を中心に学校目標を定め、取組みを実施。

１　自己を確立し未来を切り開く力を育成。　　―――充実した学校生活を実現して成長し、社会に役立つ人―――
２　勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成。―――学習活動を基本に据え、自信に溢れ前向きに生きる人―――
３　人とつながり自らを律する力を育成。　　―――他者を思いやり、地域から信頼される強くて優しい人―――
４　生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成。

２　中期的目標

１　自己を確立し未来を切り開く力を育成　→　学校生活の充実と規律ある高校生活を保障し、社会に役立つ人間を育成

（１）規律ある高校生活の実現

ア　**当たり前に登校できる生徒を育成**　社会人として欠席・遅刻は許されない

欠席件数を 7000 件以下（・H30 は 8000 件・H31 は 7500 件：2020 年は 7000 件以下へ）にする。遅刻件数を 2600 件以下に（H30 は 3000 件・H31 は 2800 件・2020 年は 2600 件以下へ）

イ　**ルールを守る意識の醸成**　生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」を納得させる指導を行う。

懲戒件数を３０件以下にする。（H30 は 40 件　H31 は 35 件　2020 年は 30 件以下へ）

（２）部活動と生徒会活動の活性化

ア　**「元気な学校づくり」**　部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。放課後に生徒の声が響き渡る学校にする。
※３年後には、部活動の入部率を現在の 30%から 35%に引き上げる。

イ　**学校行事で「人を育てる」**　生徒会が中心となり生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感しできるものにする。
※学校教育自己診断において、３年後には「学校が楽しい」と答える生徒を 80%以上とする。（H30 は 75%・H31 は 77.5%・2020 年は 80%以上へ）

２　勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成　→　【確かな学力の育成】を目ざし、自ら伸びる力の育成とわかる授業の創造

（１）新たな学びに対応したわかる授業の研究　新しい学習指導要領では主体的・対話的な深い学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善が求められる。平成３４年（２０２２年）の完全実施に向け研究活動を行う。

ア　**アクティブ・ラーニングの研究・実践**　府下の先進校を訪問し、授業見学を行い、校内での情報共有の研修を行う。
各年度２校の学校訪問と１回の研修を実施し、３年間で８校の学校訪問と５回の研修を行う

イ　**JAPAN e-Portfolio への対応**　生徒が学校内外の活動を e ポートフォリオとして記録し、自らの学びの蓄積を確認できる体制の確立と活用方法を研究する。
JAPAN e-Portfolio の情報収集を積極的に行い、校内システムとのすり合わせを行う。

（２）キャリア教育の推進

「平野キャリアスタンダード」の推進と改革　「総学の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。
３年後の進路決定率９５％をめざす。（H30 は 90%・H31 は 92.5%・2020 年は 95%）

３　人とつながり自らを律する力を育成　→　多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成し、地域から信頼される強くて優しい人間を育成

（１）「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、地域とつながり平野高校を推進　大阪府において通級指導教室が制度化されることをふまえ、「ともに学び、ともに育つ」教育の推進を推し進めるとともに、学校行事やビオトープに地域の人たちを学校に招くことで、交流の機会を増やし、共同作業や学習の機会を通して他者を認める力や認められる喜びを育てる。

ア　**「ともに学びともに育つ」教育の推進**　支援教育が共生社会の形成の基礎なることから、障がいのある生徒だけでなく全ての生徒に対し教育相談主担や SC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。

イ　**「地域とともに生徒を育てる」**　ビオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていくとともに平野高校の活動を、中学生や保護者にも広く知らせる。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。地域から認められることにより自尊感情を高め、生徒の自信の醸成を図る。

（２）「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む

ア　**「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ**　人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。

イ　**「グローバル人材の育成」**　文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。
※韓国大成一高校との「スタディツアー」を更に発展させ、学ばせたいこと、旅行行程、交流の在り方について本校独自のプログラムを策定し実施する。

４　生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成

（１）新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。

「持続可能な教員力」の育成　変化に対応できる教員力を養うため、生徒をより深く理解する力を高め、校務のスキルアップを図るため、学校経営の中核を担うミドルリーダーや経験年数の少ない教員の育成を図る校内研修と OJT の充実する。

（２）「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。

「教職員の長時間勤務の縮減」　一斉退庁日の設定や部活動休養日の明確化など、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。
※時間外労働時間において、３年後には 15%以上削減とする。（H30 は 5%・H31 は 10%・2020 年は 15%以上へ）

府立平野高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成３０年１２月実施分］	学校運営協議会からの意見
概況として、全設問で肯定値が過半数を超え、年次進行で増加している。「成績はテストの点だけでなく･･･総合評価している」82％(2％減)、「成績不振に対して･･･補習による学力向上」81％(3％減)。前年度比では微減だが肯定値高い。また「学校へ行くのが楽しい」6％増、「授業わかりやすい」5％増、「授業以外に楽しみがある」7％増。文化祭、球技大会、生徒会活動などが楽しみの内容か。今後も増加を期待する。 「いじめに真剣に対応してくれている」3 割が否定値。SNS の件では懲戒こそ無かったが、学校が掴めて無い実態あるのでは。 保護者アンケートでは、回収率が 47％→42％へ減少。「個人情報が守られている」92％。書類の扱いや生徒指導の説明などの対応に配慮した結果か。「家庭で将来の生き方話しあう」9 割肯定。回答頂けた保護者、ということで高い数字になっているのかもしれない 「授業はわかりやすいようだ」3 割が否定。更なる研鑽が必要。学校に対する関心ある様子。「行事に参加した事がある」毎年低迷しているが、文化祭や体育祭の参加者は増加している。	第１回（６月２７日） 先生方の大変な努力の結果が入試に現れた。地域住民としてありがたい。生指だけでなく、新たな取組み（ＡＬ、e ポートフォリオ等）に係る研修等大変だが「働き方改革」の項目について、長時間勤務の縮減へ向けての取組み状況は？仕事が集中しないよう、先生方も健康に気をつけて欲しい。　仕事が集中しないよう、先生方も健康に気をつけて欲しい。 働き方改革について。松原市では夏季休業中に「日番を置かない休業日を 4 日間」を試行。一斉退庁日（19：00）も導入。帰れない先生もいるが、全体的に退勤は早くなってきた。 社会的には、引きこもりの「長期化」「高年齢化」が報道されている。小学校では、家庭（親）の養育姿勢が大きく影響している。原因は「ネグレクト系」。子どもに登校刺激を与えない、下の小さい子の世話をさせる等。歯科検診の治療確認がないケース等、親の子に対する感心の低さが見える。「友人トラブル」が原因の不登校は、改善が見込める傾向。この子たちは、これらが原因で、学力が振るわない事が多い。小学校では、担任以外でも頻繁に家庭訪問を行う。 中学校では、「人間関係のトラブル」が増える。解決しようとするが、多大なエネルギー消費。改善した実例もある。そのケースでは、ただ学校に「来る」を目標にスタート。本人に出来ることを繰り返し、少しずつステップアップして、現在登校できるようになってきている。 第２回（１０月１０　日） 不登校の対応が難しい。どのようなアプローチしているか。 生い立ち等は、高校だけで何とかなる問題ではない。自己肯定感・成功体験のない生活が長年蓄積し「投げやりな感覚」を作ったのではないか。小学校では「肯定的に言葉をかけていくこと」「活躍できる機会をつくること」「子どもと子どもをくっつける、集団作り」。例えば児童会の活性化、クラスミーティングを通して自己開示をする仕掛けを作るなどしている。 小学生のスマホ所有率は高い。特に高学年では顕著。しかし、SNS 絡みのトラブル・いじめは意外とない。ゲームや youtube で深夜まで起きている例もあり、親に来てもらって指導している。学校への持ち込みは禁止。学校によっては安否確認のために許可している例もある。多数がスマホを所持していることを前提として、5 年生で SNS について指導、6 年生では警察に来てもらって「防犯教室」開催している。 第３回（１月３０日） 「楽しい」「授業分かりやすい」で肯定値増。努力のおかげ。地域住民としても感謝。気になるのはいじめの話。3 割が否定的と多い。アンテナをはって気配り、情報連携を。安心できる学校づくりにつながるようお願いしたい。 保護者の学校教育への参加について。報告にあったように、家庭教育と学校教育連携は必須という議論の中、PTA 行事等は一部の人の参加になりがち。障害者福祉施設でも似た傾向。ただ、施設の場合「卒業」は無い。付き合い長く、諦めたら終わる。情報提供を細やかに、電話だけではなく顔を見ながら出来る機会を増やすようにしている。 大阪の子どもは、自己有用感低い。小学校の一例でも、1 年から 6 年と下がってきている。ここをよくしないと。「自分は必要ない」と思えば、居場所がなくなり、コミュニケーションも乏しくなる悪循環。先ほど、行事の中で主体的に取り組む生徒の姿が報告されていた。是非進めてほしい。 勤務先の介護施設クリスマス会に本校のボランテイアブ部が参加。事前の打ち合わせにて、高校生と利用者さんとでコミュニケーションの時間とった。利用者さんも「孫が来た」感覚で、「もう帰るの。」と名残惜しむ様子。本番でも、例年に比べ参加具合が良かった。将来介護職をめざす生徒もいるだろう。お互いに良い経験になったのでは。地域の方との交流と言う意味でも有意義。授業の中でやってみてもよいのでは。施設としても地域連携を重視している。

府立平野高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１　自己を確立し未来を切り開く力を育成	（１） 規律ある高校生活の実現 （２） 部活動と生徒会活動の活性化	（１） **ア　当たり前に登校できる生徒を育成** 平成２８年度入学生から遅刻欠席が増加している。高校生活の大前提は学校に登校してくることであることを、保護者と連携しながら、生徒自身の自覚を促す。 **イ　ルールを守る意識の醸成** 生徒に寄り添う粘り強い指導で、自ら規律を守ることのできる生徒を育成する。 （２） **ア　「元気な学校づくり」** 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。 ・　個々のクラブ活動の成果を生徒全体で共有する広報活動を強化する **イ　学校行事で「人を育てる」** 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事。 ・　**自ら企画・立案・運営できる設定を考え、「達成感・成就感」を体感できるものにする。** ・　**競技大会などの学年行事への生徒の取り組みに工夫**	（１） ア　遅刻件数を 3000 件 欠席件数を 8700 件 (H29　遅刻 3204 件 欠席 10470 件) ・学校自己診断で「学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている」 80%以上（H29　79%） イ　懲戒件数を 35 件 (H29　懲戒 42 件) ２） ア　仲間の頑張りを共有するため、クラブ活動新聞を年３回発行する。（新規） イ　自己診断で「学校が楽しい」と答える生徒を65%以上(H29:60%) **・「学校行事に積極的に参加している」80%(H29:75%)** **・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」75%** **(H29: 72%)**	（１） ア欠席・遅刻とも目標達成はできなかったが、欠席は１０００件程度減少できる。（△） 欠席９２５５（H29　10470）（○） 遅刻３７９８（H29　3204）（△） ・学校自己診断で「学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている」　７７％　（△） 担任団の丁寧な連絡で、欠席は改善され、遅れてでも登校するようになっているが、基本的な生活習慣の確立が課題である。 イ　３月末　３２件（◎） 懲戒件数は目標を達成している。 ２） ア　クラブ活動新聞は発行できなかった（△） タイミングを考えるとＨＰの活用にすべきであった。 イ　・「学校が楽しい」６０％（△） ・「学校行事に積極的に参加している」７５％（△） **・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」６６％（△）** **楽しく行える工夫が昨年度より低下ししており、生徒のニーズの把握が必要である。**
２　勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成	（１） 新たな学びに対応したわかる授業の研究 （２） キャリア教育の推進	（１） **ア　アクティブ・ラーニングの研究・実践** エンパワメントスクールやSSHなどの先進校の教育実践から学ぶため、学校訪問を２校以上述べ１０人以上の教員で行う。 また、情報共有のための校内研修を行う **イ　JAPAN e-Portfolio への対応** 情報収集に努めるため、各種研修会への参加に努めるとともに、生徒自らが記録を入力できる体制の検討会を開催する。 （２） **「平野キャリアスタンダード」の推進と改革** 「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。 ・　**１年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る（活躍する卒業生や大人へのインタビューの企画・実施）** ・　**中小企業家同友会との連携。生徒就労意識を育てる。** ・　**インターンシップや応募前職場見学の実施** ・　**３年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。** **・進路指導課と学年との連携した進学に向けての講習を実施し、学習チューター・学年主任・進路主担・進学主担・就職主担の連携を強化する。** **・自習室管理と自習の計画と運営** **・総合的な学習の時間を中心に、積極的に図書館を活用する方策を考える。（調べ学習など）**	（１） ア　・学校訪問２校以上、校内研修の実施（新規） ・中退者を３５人以下にする。(H29 は４８人) イ　研修会参加３回（新規） 校内検討会２回（新規） （２） ・　進路決定率 90% (H29 は 87.5%) ・　就職一次内定率 80% (H29 は 72%) ・図書館利用率 60% (H29 は 47%)	（１） ア　・学校訪問を３校実施した。(◎) ・中途退学は３月２８日現在　２８人（◎） イ　・研修会参加３回（○） ・校内検討会２回（○） 校内研修１回（◎） （２） ・進路決定率８４％（１２月末現在） ・就職一次内定率７９．８％（◎） 就職希望者の内定率は景気の状況にも恵まれ良い結果になった。　一方、無理に進路を決定しなくても何とかなるとの意識を拭い去ることができず、未決定者が多い状況にある。 ・図書館利用率　４７％（△） （工事の準備のため利用できない。） 述べ利用者数は１００人程度増加している。

府立平野高等学校

３　人とつながり自らを律する力を育成	（１） 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、地域とつながり平野高校を推進 （２） 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む	（１） **ア　「ともに学びともに育つ」教育の推進** 　高等学校での通級指導教室の制度化をふまえ、発達障がいをはじめ障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」の引継を定着させ、高校での指導に活かす。また、教育相談主担やSC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。 **イ　「地域とともに生徒を育てる」** 　ビオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。 **・地域清掃活動の実施** **・近隣小中学校との交流** **・授業での福祉施設交流** **・ひまわりプロジェクト** **・幼稚園や地域住民との交流** **・地域のフェスタへの参加** **・中学生・保護者への広報** ・平野区との連携 （２） **ア　「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ** 　人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。 **・３年間を見据えた人権教育マップの作成。** **イ　「グローカル人材の育成」** 「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する」をベースにし、卒業後の地域を担う人材となるため、文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。 ・　姉妹校である大成一高校との交流をさらに発展する。 ・　交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 ・　フィリピンでの支援を行っている Pioneer Kids Japan との連携を強化する。	（１） ア　「個別の教育支援計画」の中学校からの引継を１００％（新規） イ　学校教育自己診断（教員用）「学校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。」65％　（H29は57％） （２） ア　「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」を75％以上 （ H29:73％） イ　大成一高校との交流会参加者５０人（H29　40人） Pioneer Kids Japan の活動紹介を HR で行う（新規）。	（１） ア　「個別の教育支援計画」の引継率１００％ イ　「学校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。」　６６％（◎） （２） ア　「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」 　７３％（△） イ　大成一高校との交流会参加者５０人（◎） 　今年度は大成一高校の生徒に体験してもらう内容を生徒たちが企画・準備・実施ししたことで、韓国の生徒に大変喜んでもらえ、本校生徒にとっても印象深いものとなった。 ・Pioneer Kids Japan の活動紹介を HR で説明し、教室掲示を行った（○）
４　生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成	（１） 　新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る （２） 　「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。	（１） **「持続可能な教員力」の育成** 　新しい学習指導要領に基づく教授方法や観点別評価などへの対応を行うとともに、今後ＡＩ化の進行など社会の変革に伴う教育課題の変化にも対応できるような、継続的に自ら教育課題と向き合い学ぶ教員力を育成する。 （２） **「教職員の長時間勤務の縮減」** 　一斉退庁日や部活動休養日を確実に実施し、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。	（１） 　教員から研修テーマを募集し、企画・運営を行う校内研修を実施する。（新規） （２） 　時間外労働時間において10%以上削減する。 （平成29年度　１２月末 　２０２６９時間）	（１） 　新学習指導要領と JAPAN e-Portfolio の研修を行った。（◎） （２） 　１２月末の時間外労働は17,261時間である。 １００時間越えの教員は１人、８０時間越えの教員が数人の状況にあり、引き続き勤務時間管理及び健康管理を徹底が必要な状況にある。（◎）